

福岡市総合図書館映像ホール
Fukuoka City Public Library Movie Hall

シネラ

Ciné-là

特別企画

共に生きる

社会のために

『砂の器』 イラスト:花野孝史

12

クリスマスファミリー特別企画

ニック・パーク特集



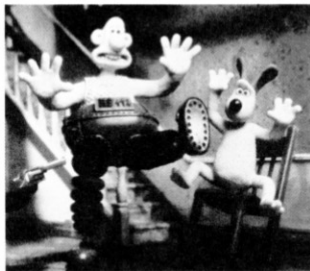
クリスマスファミリー特別企画



ニック・パーク 特集

クリスマスのファミリー向け特別企画として、世界中で、現在最も注目されている人形アニメーターであるニック・パークの代表作「ウォレスとグルミット」シリーズ全三作と、最新作「チキンラン」をお届けします。

粘土で作られた人形達がスクリーンの中で生き生きと動き出し、大活躍。その動きもさることながら、ほのぼのとしてそれでいてどこかおかしな登場人物(?)達が巻き起こす様々な物語は、大人から子供まで楽しめること間違いなしです。今回、クリスマスということで、小さなお子さまと一緒に楽しめるように日本語吹き替え版で上映します。



会 期：23日(日・祝)・24日(月・振休)

観覧料：800円(大人)／500円(大学生・高校生)
400円(中学生・小学生)／親子券1,000円

※定員制・各回入替制。※チケットはすべて当日券です。前売り券はありません。
※福岡市在住の障害者の方、及び福岡市在住の65才以上の方は400円。(手帳の提示が必要です。)

ウォレスとグルミット シリーズ 監督：ニック・パーク

珍発明家のウォレスと愛犬グルミットが巻き起こす珍事件の数々。第一作の「チーズ・ホリデー」はニック・パークが国立映画テレビ学校の卒業制作として製作を開始、6年かけて完成させた。第二作「ペンギンに気をつけろ!」第三作「ウォレスとグルミット、危機一髪!」はともにオスカーを受賞した。とほけた一人と一匹のキャラクターは、CMやキャラクターグッズとしても登場し、大人気となっている。

ウォレスとグルミット

チーズ・ホリデー

1989年／35ミリ／カラー／23分／イギリス

日本語吹き替え版

「ウォレスとグルミット」シリーズの第一作。発明家のウォレスと愛犬グルミットは、週末のピクニックに月旅行を計画。目指すは月のチーズを食べること。早速二人はロケットを作って出発。無事に月に到着しますが…。

ペンギンに気をつけろ!

1993年／35ミリ／カラー／29分／イギリス

日本語吹き替え版

家計が苦しいウォレスは、下宿人を募集します。やってきたのはペンギンの紳士。このペンギン紳士、グルミットの部屋を占領したばかりか、何かとウォレスに取り入りながら、何やら悪事を計画している様子ですが…。

ウォレスとグルミット、危機一髪!

1995年／35ミリ／カラー／31分／イギリス

日本語吹き替え版

窓ふきサービスを開業して、大忙しのウォレスとグルミット。ある日、二人は仕事である毛糸屋さんに呼ばれ、ウォレスはそこの女主人に一目惚れ。その頃、町の郊外では牧場から羊が群れごと消えてしまうという事件が起こっていました。

チキンラン

監督：ニック・パーク、ピーター・ロード

2000年／35ミリ／カラー／85分／イギリス

日本語吹き替え版

ニック・パークとアードマンスタジオ、そしてハリウッドのドリーム・ワークスが協力して完成させた長編人形アニメーション。養鶏場のニワトリたちが真のニワトリ人生を全うするため、養鶏場からの脱走を企てた!歌あり、踊りあり、アクションありの娯楽超大作です。

聴覚障害

Deaf

14日(金)14:00

15日(土)15:00



日本語字幕付き

監督：フレデリック・ワイズマン

1986年／16ミリ／カラー／164分／ドキュメンタリー／アメリカ

アメリカでも有数の障害者のための教育機関であるアラバマろう学校の日常を記録したドキュメンタリー。口頭の会話、聴覚補助、読唇術、手話等によるコミュニケーション、心理カウンセリングから職業訓練まで、学校で行われている様々な活動が記録されている。

音のない世界で

Le pays des sourds

13日(木)19:00

16日(日)11:00



日本語字幕付き

監督：ニコラ・フィリベール

1992年／35ミリ／カラー／99分／ドキュメンタリー／フランス

手話を題材としたドキュメンタリー。ろう学校の生徒たち、手話の教師ブーラン先生、ろうあ同志で結婚するカップルと映画は3者の日常生活に、彼らのインタビューを織り交ぜていく。ブーラン先生の明るい性格もあり、映画は優しく新鮮な驚きと感動を与え、世界中で絶賛された。

女人、四十。

Summer Snow

21日(金)19:00

22日(土)11:00



日本語字幕付き

監督：アン・ホイ
出演：ジョセフィン・シャオ
ロイ・チャオ

1995年／35ミリ／カラー／101分／香港

主人公のメイは40代にさしかかった女性で、夫と高校生の息子がいた。また貿易会社の販売部長として活躍していた。ところが、突然夫の母が死亡したことで夫の父が痴呆症になってしまう。看護と仕事でメイは疲労困憊してしまう。香港映画には珍しい高齢者問題を扱った映画だが、大ヒット作となった。

老年萬歳

Warmth of the Old House

19日(水)19:00

21日(金)14:00



監督：チャン・ペイチェン 日本語・英語字幕付き
出演：グ・シャンチン
チェン・イエンイエン

1984年／35ミリ／カラー／108分／台湾

台湾・花蓮にある老人ホームを舞台とした作品。なかなか孫に会うことが出来ないボン、口うるさく嫌われ者のタオ、異常な潔癖性のチン、食事委員を生き甲斐とするファンなど個性豊かな老人達が繰り広げる人間模様が、時に切なく、時にコミカルに描かれていく。

ビヨンド・サイレンス

Jenseits Der Stille

20日(木)14:00

22日(土)15:00



監督：カロリーヌ・リンク 日本語字幕付き
出演：シルビー・テステュー
タティアーナ・トゥーリーブ

1996年／35ミリ／カラー／113分／ドイツ

ろう者の両親を持つ少女ララの憧れは、父の妹のクラリッサ。クラリッサもララを可愛がり、クラリネットをプレゼントする。ララは両親の反対をよそにクラリネット奏者を目指す。絶賛と感動を呼び97年東京国際映画祭グランプリを獲得、97年ドイツ最大のヒット作となった作品。

悲哀

Pathos

19日(水)14:00

20日(木)19:00



監督：ジャヤラージ
出演：ヴァーヴァツァン
エリヤンマ

1999年／35ミリ／カラー／77分／インド

インド、ケーララ州に暮らす高齢者夫婦を描いた作品。息子はアメリカで働いており、父親の葬式にも帰ってこない。一人残された年老いた母親は、老人ホームから逃げ出してしまう。素人の俳優を使い、リアリズムに徹して製作され、2000年インド映画祭金孔雀賞を受賞した作品。

特別企画

共に生きる 社会のために

お互いの人権を尊重し、ハンディ
を持つ人々を支え合い、共に生き
る社会実現のため、障害者や高齢
者を描いた映画、ハンセン病の問
題を描いた映画などを通して人
権や共生社会を考える特集。

主催：福岡市総合図書館
後援：福岡市社会福祉協議会
福岡市社会福祉事業団

会 期：5日(水)～22日(土) ※休館日・休映日を除く
観覧料：600円(大人)／500円(大学生・高校生)
400円(中学生・小学生)

※定員制・各回入替制。※チケットはすべて当日券です。前売り券はありません。
※福岡市在住の障害者の方は無料、障害者の介助者の方は300円。福岡市
在住の65才以上の方は300円。(手帳の提示が必要です。)

特別講演／林田スマの「こころの花束」

林田
スマ



フリーアナウンサー
大野城まどかびあ女性センター所長

はやしだ すま
福岡県嘉穂郡出身。
元RKB毎日放送アナウンサー。
昭和46年、結婚のためRKB退社。その後9
年間専業主婦を経て、昭和55年、フリーと
してアナウンサーの仕事に復帰。
平成11年、エッセー「こころの花束」出版。
平成8年4月より大野城まどかびあ女性セ
ンター所長に就任。
平成11年10月、「こころの花束」出版。
主婦のモニター組織f2(エフツー)事務局代表。
福岡家庭裁判所 家事調停委員
筑紫女学館大学 非常勤講師
現在、テレビやラジオの番組を中心に、企業
やPTAの講演、各種シンポジウム・対話、ま
たエッセイの執筆なども行う。

9日(日)14:00～15:00
※開場は開演の30分前。入場は有料制で、
当日の「砂の器」の観覧料に含まれます。

見えない壁を越えて

13日(木)14:00
16日(日)15:00



監督：中山節夫

1996年4月、らい予防法が廃
止された。それまで閉ざされてい
た療養所の実態を記録し、強制
収容がどのようなものだったかを
後世に残したい。同じ過ちを繰り返
さないために。多くの人たちの
思いと、中山監督の執念により完
成した全国の約10ヶ所以上の
ハンセン病療養所の記録。

1998年／16ミリ／カラー／120分／ドキュメンタリー／中山映画

チチカット・フォーリーズ

Titicut Follies

12日(水)19:00
15日(土)11:00



日本語字幕付き

監督：フレデリック・ワイズマン

マサチューセッツ州ブリッジウ
オーターにある、犯罪を犯した精
神障害者の矯正院での日常を
記録したドキュメンタリーで、収
容者が看守たちにどのように扱
われているかが克明に記録され
ている。合衆国裁判所により一般
上映が禁止された作品だが、91
年に上映が許可された。

1967年／16ミリ／モノクロ／84分／ドキュメンタリー／アメリカ

あの夏いちばん静かな海。

5日(水)14:00
8日(土)11:00



監督：北野 武
出演：真木蔵人
大島弘子

日本を代表する監督である北
野武の第3作。湘南の海と空を
背景に、サーフィンをする若者と
少女の淡いラブストーリーであ
るが、主人公の二人がろう者で
あることが大きな特徴となっている。
言葉をいっさい使わない恋愛ド
ラマだが、観客をさわやかな感
動と静かな余韻へと導いていく。

1991年／35ミリ／カラー／101分／オフィス北野＝東通

遙かなる甲子園

5日(水)19:00
7日(金)14:00



監督：大澤 豊
主演：三浦 友和
田中美佐子

日本語字幕付き

昭和39年沖縄で大流行した
風疹により、多くの聴覚障害児
が生まれた。この子供達のため
設立された北城ろう学校で、生
徒たちが野球をやりたいと学校
に申し出る。ハンディを乗り越え
ながら甲子園出場の夢を追う、
球児達の熱い真実のドラマで
ある。

1990年／35ミリ／カラー／103分／大映＝双葉社＝ザ・アイデア

しいのみ学園

※昇地三郎先生舞台挨拶予定(両日とも)

6日(木)14:00
9日(日)11:00



監督：清水 宏
出演：香川京子
島崎雪子

小児麻痺の子供をもつ主人
公の大学教授は、子供のために
家財をなげうち、障害児のため
の学校を設立する。子供達と先
生の交流がさわやかに描かれた
感動作である。原作は「しいのみ
学園」園長の昇地三郎氏による
もので、昇地氏の実話を元に清
水宏が脚色したものが本作である。

1955年／16ミリ／モノクロ／100分／新東宝

砂の器

7日(金)19:00
9日(日)15:10



監督：野村芳太郎
出演：丹波 哲郎
加藤 剛

初老の元警官が殺害される。警察の
捜査でもなぜ善良な元警官が殺され
たのか分からない。そのうち彼はかつ
てハンセン病の父親を持つ子供の里
親であったことが分かる。野村芳太郎
監督の代表作であり、この年大ヒットを
記録した作品。四季折々の風景の中を
彷徨う親子の姿は、日本映画が生んだ
最高のシーンの一つと言われている。

1974年／35ミリ／カラー／143分／松竹＝橋本プロ

アイ・ラヴ・ユー

6日(木)19:00
8日(土)15:00



監督：大澤 豊
米内山明宏
出演：忍足亜希子
田中 実

日本語字幕付き

ろう者の朝子は消防士の夫であ
る隆一、小学3年生の愛の三大家族。
ある日朝子は愛が学校でいじめら
れていることを知る。朝子がろう者
であることがその原因だった。聴者(耳
の聞こえる人)の大澤監督とろう者
の米内山監督が対等の立場で共
同監督した、画期的な作品として
話題となった涙と笑いの感動作。

1999年／35ミリ／カラー／111分／映画「アイ・ラヴ・ユー」製作上映委員会

安心して老いるために

12日(水)14:00
14日(金)18:00



日本語ナレーション付き

監督：羽田澄子

高齢者福祉の問題にスポット
を当てたドキュメンタリー。岐阜
県池田市にあるサンビレッジ新
生苑という特別養護老人ホーム
に取材し、日本の福祉の現状と
問題点を探っていく。同時にデン
マーク、スウェーデン、オーストラ
リアといった各国の福祉の現状
を紹介している。

1990年／16ミリ／カラー／151分／ドキュメンタリー／自由工房

映画と映画雑誌

シ

ネラ・ニュース7月号のこのコラムで、「日本映画雑誌の黎明期」と題して日本に映画が伝わってから関東大震災までの映画雑誌の変遷について書きました。今回はその続きとして、震災以降の映画雑誌の変遷を書いていこうと思っています。また不定期ですが今後もその続きも掲載していければと考えています。

1923(大正12)年に起こった関東大震災は、東京・横浜をほぼ壊滅させ、都市機能を麻痺させました。そしてこの震災を契機に日本の世相は一変し、旧来からの文化が切り捨てられ、近代化(モダニズム)がより一層加速します。第一次大戦(1914~1918)の好景気によって成長した日本経済は、戦後の反動から不安定な経済状態となります。被害総額がこの当時の国家予算の四倍にも及んだといわれる震災は、こうした状況で起こりました。大正時代の国際情勢や経済、思想は複雑で世相や文化と相互に影響しあい、極めて密接な関係を持っているため、見方によっていくつもの異なった断面が見えてきます。政治経済、文化の中心であった首都・東京の壊滅は、相当のショックであつたらうと想像できます。しかし震災からの復興は驚異的な早さで行われ、それは同時に日本の近代化を一気に加速させることになります。モガ、モボが街を闊歩し、カフェやダンス・ホールが流行する「大正モダニズム」文化の全盛期は、震災の翌年頃から大正の終わりまでです。そして映画と雑誌は近代文化の象徴として、また近代的なメデイ

アとして一層の普及・進化をとげ、大正時代の終わりに文化、娯楽の一つとして完全に定着します。

映画館は震災の翌年には年間で300館以上増えて、1000館を越えます。そして公開本数は、その翌年に初めて日本映画が輸入映画を上回ることになります。世代交代が進み、溝口健二や伊藤大輔、島津保次郎などのその後の日本映画を担う監督達がデビューするのもこの時期です。そしてこうした若い監督達を中心に映画は時代劇、現代劇とも演劇の影響から完全に脱皮していきます。

雑誌文化もまた、大正時代を通じて発展していきます。

震災後には発行部数100万部を突破する雑誌も現れていますが、岩波書店、小学館などの出版社が相次いで登場しています。こうした雑誌文化の隆興の背景には印刷技術の向上があり、大正デモクラシーやモダニズムの普及の中で、マスメディアの質的変化が求められた結果だといえるでしょう。

では、映画雑誌における震災後の質的変化とは何だったのでしょうか。震災後、新聞社などが中心となって編集された映画年鑑が各種発刊されています。また映画の質的向上に伴い、「映画往来」(1925年創刊)などの純粋理論誌も創刊されますし、「映画と演芸」(芝居とキネマ)(ともに1924年創刊)などの大型のグラビア雑誌も創刊され、書店を賑わせていました。年鑑や理論誌の発刊は映画の文化的価値を認め、芸術的、文化的地位が実質的に向上したことの現れでしょう。当時は映画は文化として不当に低い扱いを受けていましたが、その文化的影響力は無視できないものでした。そして、豪華な大型グラビア誌の出現が、映画の人氣に拍車をかけていくことになります。



「映画往来」(キネマ旬報社刊)

映像調査員 山本 幸

■お知らせ

各団体の自主上映

●12月2日(日)13:00

「戦争と人間 第1部 運命の序曲」

(監督:山本薩夫)

観覧料/前売:1,200円
当日:1,400円
中高生・シニア:1,000円

主催/福岡映画サークル協議会
(Tel.092-781-2817)

※自主上映の詳細については、直接主催者にお問い合わせ下さい。

シネラNEWS送付のご案内

定期購読ご希望の方に毎月シネラNEWSをお届けしております。購読を希望される方は、平成14年1月号~平成14年3月号までの郵便切手(90円×3ヵ月)を同封の上、下記宛先へお申し込みください。宛先:〒814-0001福岡市早良区百道浜3-7-1 福岡市総合図書館 映像資料課

ビデオ編集技術研修室のご案内

ビデオ研修室では、家庭で撮影されたビデオ(Hi8・DV)や各行事の記録ビデオの編集などに利用できます。(使用料1時間500円、連続使用3時間迄) ※詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで

映像ホール利用申し込みについて

映像ホール・シネラで自主上映(非常利に限る)を希望される方は、下記のとおり利用申込みの受付を行いますのでお申し込みください。

○利用申込対象期間

平成14年6月から同年11月分まで
※別途配布の申込用紙に対象日に掲載しています。

○申込受付期間

平成13年12月1日(土)~12月13日(木)必着
※休館日を除く

○抽選日

平成13年12月16日(日)午前11時より

○抽選会場

福岡市総合図書館・3階第2会議室

○利用申込用紙

福岡市総合図書館で配布中の申込用紙をお出し下さい。

お問い合わせ

福岡市総合図書館映像資料課(事業係)
〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号
TEL 092-852-0608

12月

上映スケジュール

1 土	休 映 日		
2 日	自主上映「戦争と人間 第1部 運命の序曲」		
3 月	休 館 日		
4 火	休 映 日		
5 水	14:00 あの夏、いちばん静かな海。	19:00 遙かなる甲子園	
6 木	14:00 しいのみ学園	19:00 アイ・ラブ・ユー	
7 金	14:00 遙かなる甲子園	19:00 砂の器	
8 土	11:00 あの夏、いちばん静かな海。	15:00 アイ・ラブ・ユー	
9 日	11:00 しいのみ学園	14:00 特別講演/林田スマ	15:10 砂の器
10 月	休 館 日		
11 火	休 映 日		
12 水	14:00 安心して老いるために	19:00 チチカット・フォーリーズ	
13 木	14:00 見えない壁を越えて	19:00 音のない世界で	
14 金	14:00 聴覚障害	18:00 安心して老いるために	
15 土	11:00 チチカット・フォーリーズ	15:00 聴覚障害	
16 日	11:00 音のない世界で	15:00 見えない壁を越えて	
17 月	休 館 日		
18 火	休 映 日		
19 水	14:00 悲哀	19:00 老年萬歳	
20 木	14:00 ビヨンド・サイレンス	19:00 悲哀	
21 金	14:00 老年萬歳	19:00 女人、四十。	
22 土	11:00 女人、四十。	15:00 ビヨンド・サイレンス	
23 日	11:00 ウォレスとグルミット	13:30 チキンラン	16:00 ウォレスとグルミット
24 月	11:00 チキンラン	13:30 ウォレスとグルミット	16:00 チキンラン
25 火	休 館 日		
26 水	休 映 日		
27 木	休 映 日		
28 金	年 末・年 始 の 休 館 日		
1/4 金			



交通アクセス: 当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。
地下鉄: 西新駅または藤崎駅から徒歩15分
西鉄バス: 天神~都市高速経由~福岡タワー南口 (所要時間 昼間で約20分)
博多駅~都市高速経由~福岡タワー南口 (所要時間 昼間で約25分)
福岡タワー南口バス停から徒歩3分
いずれも、昼間は10~15分間隔で運行されていますので大変便利です。
お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください。

編集雑誌 21世紀の幕開けの年、2001年が終わろうとしています。米国同時多発テロ事件や米国大リーグでのイチロー選手の活躍など、様々なニュースで記憶される年となりました。さて、21世紀は「人権の世紀」と言われています。そこで、今月は国連の「人権デー」にちなみ、「共に生きる社会のために」と題して、障害を持つ人々や高齢の人々を描いた映画、ハンセン病問題を扱った映画などを特集します。「文明の衝突」ではなく「人類の共生」を願って、21世紀の始まりの年の締めくくりとしてお届けします。(M.Y)

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là
福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表)092(852)0600 映像資料課092(852)0608 Fax.092(852)0609

福岡市総合図書館ホームページアドレス <http://toshokan.city.fukuoka.jp/>